言語聴覚士(ST)の取り組み
～選ばれる施設を目指して～

特別養護老人ホーム玄海園
言語聴覚士　宮副　隆匡
管理栄養士　植松　博和

誤嚥性肺炎について

・令和4年の人口動態統計において死亡原因の**第6位**
・**約56,000人**が亡くなっている
・令和5年では**約60,000人**と年々増加傾向
・高齢者の肺炎の**約8割**が誤嚥性肺炎とされている

佐賀県では・・・

・令和4年の死者数11205名のうち**428名**
・全体の3.8%（佐賀県でも全体の**第6位**）

ST入職時の施設の課題

・とろみが職員によりバラバラで全体的に強すぎなのではないかな？

・体調や状態に合わせた介助ができているのかな？
（一口量が多い、介助のペースが速いなど）

取り組み紹介

トロミの粘度ばらつきの解消

・ケアプランへの反映

・ユニットケアマニュアルにとろみの強度別の付け方を記載

・個別援助計画書に「弱・中・強」を記載しケアの統一を図る

文書番号	一般 8506	特別養護老人ホーム　玄海園	頁	7/31
発行日	2024/07/01	ユニットケアマニュアル	起案	植松　博和
版	第 13 版		承認	黒木　和美

《とろみについて》

食事形態同様にご利用者の嚥下状態に応じて必要な時は水分や汁物にはとろみをつけましょう。

◇とろみの付け方

方法①: スプーン等で飲料をかき混ぜながら
とろみ剤を入れ、20～30秒かき混ぜる。

方法②: とろみ剤を乾いた容器に入れ、
飲料を勢いよく注ぎ、20～30秒かき混ぜる。

※飲料の種類・温度によってとろみの付き方が違います。提供前にとろみの状態を確認しましょう。
特に牛乳や栄養補助食品はとろみがつくのに時間がかかるため注意しましょう。

→とろみを付けた後の調整について

とろみが強い時 ： 同じ飲料を加えてかき混ぜればとろみを弱めることができます

とろみが弱い時 ： 濃いめのとろみをつけた飲料を加えて混ぜればとろみを強めることができます

※とろみをつけたあとにとろみ剤を粉のまま加えるとダマになることがあります。

◇とろみの目安　※200ml に対するとろみ剤の量　　※小さじ(5cc)では約 1.5g、中さじ(10cc)では約 3.0g

とろみの程度	弱	中	強
水	2.0g	4.0g	6.0g
お茶	2.0g	3.0g	5.0g
牛乳	2.0g	3.0g	4.0g
味噌汁	2.0g	4.0g	5.0g

嚥下調整食学会分類 2021 参照

→とろみの程度

弱いとろみ ： スプーンを傾けるとスッと流れ落ちる

中間のとろみ ： スプーンを傾けるとトロトロと流れ落ちる

強いとろみ ： スプーンを傾けると形状がある程度保たれ、流れにくい

個別援助計画書（2）

ユニット（ [redacted] 様

短期目標			
①	発語が増え、意向を汲み取ってもらうことができる。	⑤	誤嚥なく食事することができる（高リスクの改善）
		⑥	安全に経口摂取の維持と誤嚥の予防に努める。
②	拘縮が進行しない。		
③	安全に移乗することができる。	⑦	支援を受け、清潔を保持することができる。
④	脳梗塞が再発しない。		

	主食	副食	汁物・水分
食事形態	ミキサー粥/半量 2/22～	ゼリー食/半量	具なしトロミ/半量
こだわり 注意が必要な事	・食事は全介助行う。嚥込みに注意する。 ・食事は声掛け行い、居室かリビングで食べるか意向を確認。（昼食時のみ離床） ・みかん、オレンジジュースは苦手。意向を確認。 ・栄養補助食品を1日2個提供。 ・水分汁物とろみ(中)		

職員研修の実施

・全体研修にて利用者の誤嚥予防のため
　摂食嚥下や口腔ケアについての講義を実施
（困難事例の対処法や基本的な食事介助について）

ミールラウンドの様子

・摂取時の姿勢、一口量など気になった点は直接職員に指導を行っている

経口移行に向けての取り組み

T.Y様　　主な経過

・R５.６　　脳梗塞発症

・R５.８　　経管栄養開始（鼻腔）

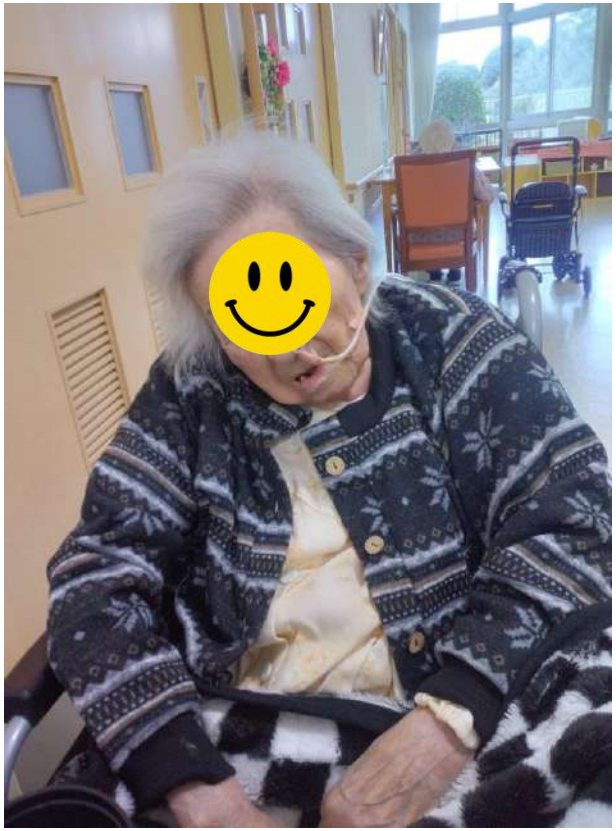
・R５.１２　玄海園利用開始

・R５.１２末　経口移行　ST介入開始

・R６.２.１　鼻腔チューブ中止、食事提供開始

・R６.４.２３　３食ミキサー食提供開始

チューブ挿入時



経口移行後

看取り期・経管栄養者のお楽しみ

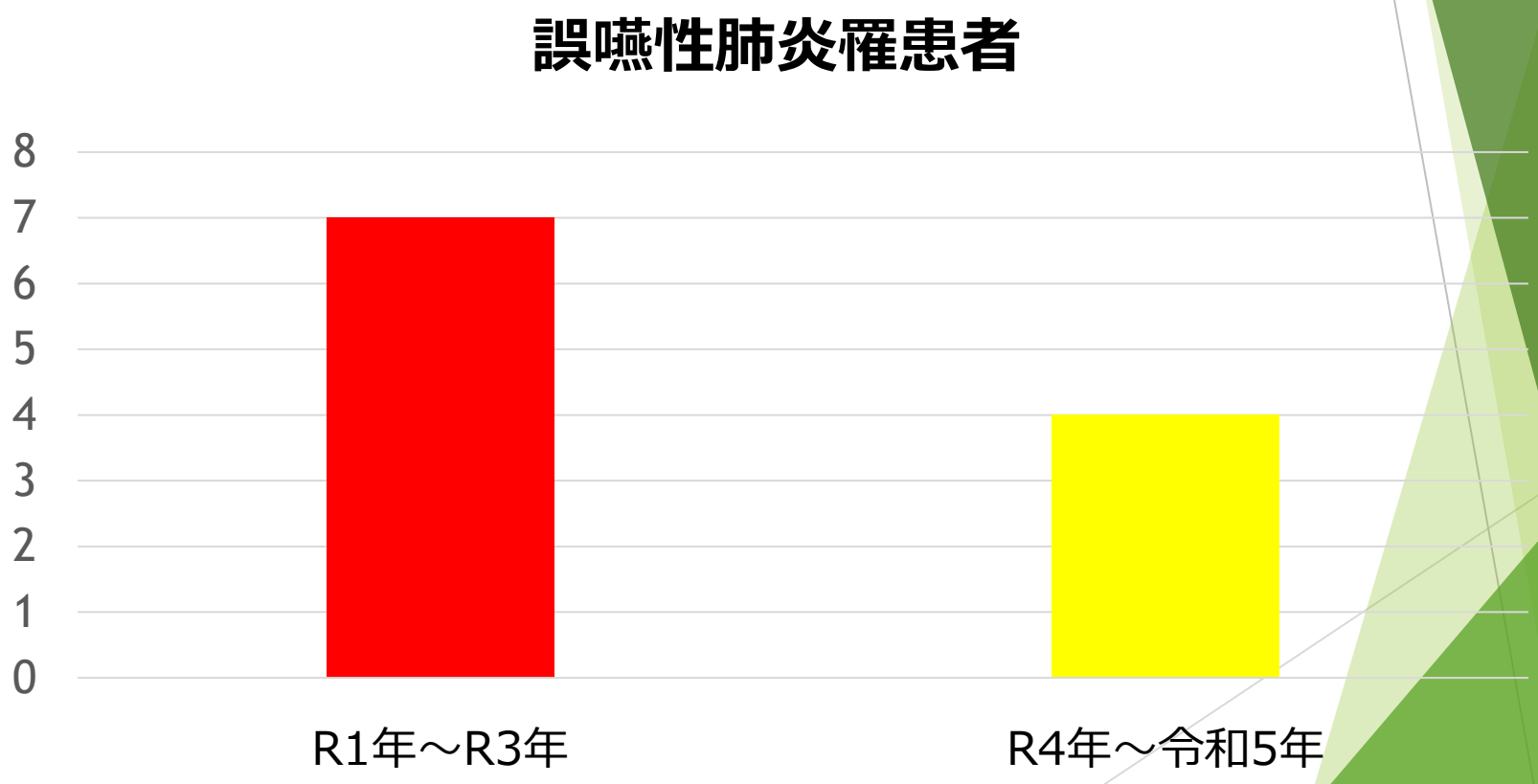
取り組み後の成果①

・誤嚥性肺炎罹患率の軽減

・生活満足度の向上

・ムセや窒息の減少による利用者の負担軽減

誤嚥性肺炎罹患者



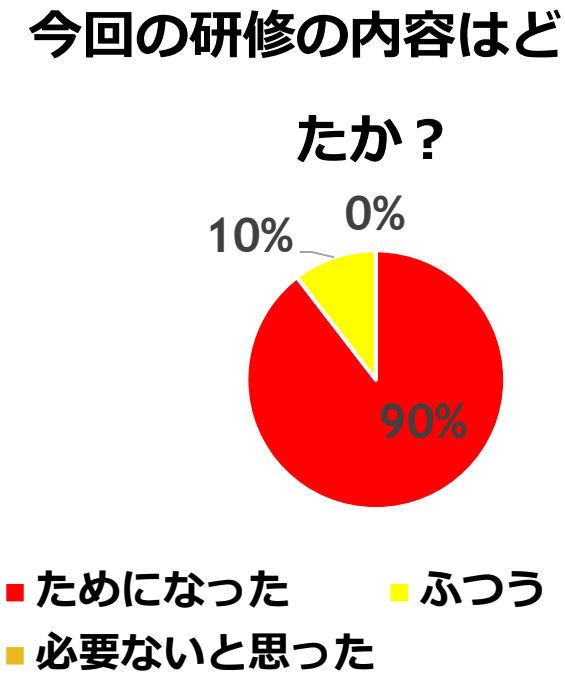
取り組み後の成果②

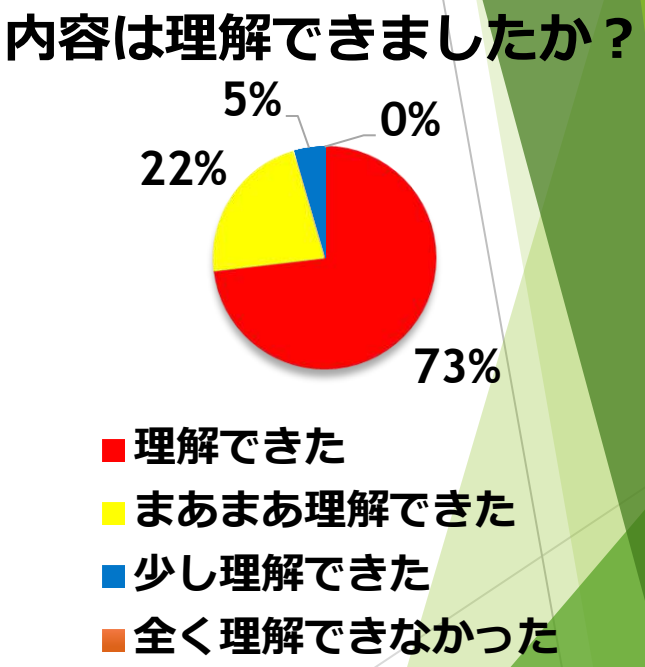
・統一したトロミの強度で提供できるようになった

・新人教育の際にもとろみ付けの指導が容易

・嚥下に関するより深い知識の吸収ができた

研修後のアンケート


今回の研修の内容はどうでしたか？
10%
0%
90%
ためになった
ふつう
必要ないと思った


内容は理解できましたか？
5%
0%
22%
73%
理解できた
まあまあ理解できた
少し理解できた
全く理解できなかった

今後の課題

・特養だけでなくグループホームの利用者の状態変化にも対応

・栄養管理課とより連携を強化し、安全な食事提供を行う

（食事、おやつの形状や固さなどのアドバイス）

・職員一人一人の力量差があるため、より個別の指導が必要

終わりに

・今後も利用者の安全と食を楽しむための取り組みを継続し、よりよい施設づくりの一員になれるよう精進していくことで、選ばれる施設を目指して地域にも働きかけを行っていきたいと思います

ご清聴ありがとうございました

引用：厚生労働省　人口動態統計月報年計(概数）の概況
佐賀県　人口動態統計月報年計